

佳作

知ること

三郷市内中学校 2年

匿名

知らないものに出会ったとき、人は本能で恐怖を感じるといいます。それは単に対応策を知らないことからくる不安が原因であり、知ることや理解することでその恐怖心は薄れていくといえます。日本人は特に、外国人や障がい者など、自分と違う性質を持つ人や物に対して排他的だといえます。

私の祖父は、身体障害者です。祖父がまだ二〇代の頃、居眠り運転をしていた車に衝突され、歩けなくなりました。

私が普段使う電車やバスの中でも時々、障害を持っているのだらうと思う方に出会います。障害を持っているとは、見た目では分からなくても、赤に白の十字が書かれているヘルプマークをもっている方を見かけることもあります。障害を持っていたり、ヘルプマークをつけている方々に今の日本は優しい国でしょうか。障害を持っている方だけでなく、「ふつうと違う」方々を恐怖と思い、排除しようとする気持ちは無意識に起こりうるということです。たとえば、混んでいる電車にベビーカーを押して乗ってきた人がいたら、どうしても邪魔だなあと感じてしまいます。しかし、自分がその立場だったらと考えてみましょう。どうしても混んでいる電車に乗り、行かなければならない急な用事があるのかもしれませんが、それなのに、ベビーカーが邪魔だという目で見られていたらとても悲しい気持ちになります。このように一歩立ち止まって考えることで、相手のことを理解して歩み寄ることができるのに、ほとんどの人がそれをしようとしません。知らないことが「怖い」という感情を生み、「怖い」という感情が知ろうとする姿勢を押さえ込んでしまうのです。

では、どうしたらよいのでしょうか。私は障がい者のことをもっと知るべきだと思います。令和三年に「障害者差別解消法」が改正され、令和六年四月から事業者による障害のある人への合理的配慮の提供が義務化されることとなりますが、友人に聞いても障害者差別解消法のことを知らないといえます。私も、普段の生活で障害者差別解消法が社会にあまり浸透していないように感じます。日本盲導犬協会の調査で、昨年的一年間で盲導犬同伴での受け入れ拒否にあった方が四五パーセントに上ったという記事を見ました。視覚障害のある方の社会参加を阻む障壁が多数あることも分かりました。誰もが自由に社会参加できる社会を作るには、事業者などへの周知が必要だと感じます。

誰もが暮らしやすい世の中にするために、自分たちにできることはないのでしょうか。電車ですらそうな人がいたら席を譲る、視覚障害者の方が困っていたら声を掛けてみるなど、できることは限りなくあると思います。手を差し伸べることは、少しの勇気があれば誰にでも出来ることだと思います。私は、自分にできることを考えて行動できる人間になりたいと思います。